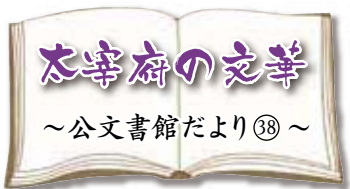


## まつりと時代の移り変わり

今年度はいったんお休みとなりますが、「太宰府市民政庁まつり」は、太宰府町の時代から数えると39年続いた名物イベントです。町の商工会主催の盆踊り大会を前身に、学業院中学校のグラウンドを会場として昭和53（1978）年に町が主体となり始まりました。

第1回の町民まつりは8月19日、降雨の心配もよそに賑々しく開催され、約4000人の町民を集めます。テーマは、地域の連帯性をより強く、ですが、ピンクレディに扮した子どもたちのモノマネ熱演や、盆踊りのフィナーレには流行歌「ビューティフルサンデー」を採用するなど、世相を反映させた内容を当時の広報紙が伝えていきます（広報『太宰府』179号）。

昭和57（1982）年の市制施行にともない、町民まつりは「市民まつり」となります。開催主体は実行委員会に移り、市民の手による市民のまつり<sup>が</sup>が強調されます。NHK紅白出場歌手・北原謙二らがゲストに呼ばれ、市制施行記念行事としてのまつりに色を添えます。（『市政だより太宰府』273号）その翌年には水前寺清子が招かれ、学中の会場を1万人の人出が埋めました（同上、296号）。



会場が大宰府政庁跡となり、まつりの内容もガラリと変わるのは平成元（1989）年の第8回目から。ルネサンス・フェスティバル・イン DAZAI FU-21と銘打ち、それまで盆踊りをメインとしていたプログラムは一新され、綱引き大会やラムネの早飲み大会などの一般参加コーナーのほか、レーザー光線によるコンサート演出が組み込まれます。ふるさと太宰府”をテーマに、会場も南門

に入口ゲート、正殿に特設ステージを配し、並ぶ露店を回廊に見立てて、歴史とロマンの大宰府政庁跡”をPRしました（同上、431号）。例年8月を開催月としていましたが、これ以降は9月あるいは10月の秋開催へと時期が移動しました。

以後、豪雨災害により中止となつた平成15年を除き、太宰府の文化を市民皆で楽しく表そうとする市民まつりは26回行われて来ましたが、近年は史跡地保護や交通渋滞の対策などが大きな課題として取り上げられるようになり、ターニングポイントを迎えました。時代に沿う、より太宰府らしいまつりのあり方が現在模索されています。